



ご自由にお持ちください

歯っとPepper

日本大学松戸歯学部附属病院だより

間違い探しの答えを当てて景品をもらっちゃおう!
(詳しくはP.4をご覧ください)

第41号

NO.1
2019.4.1

間違い探し

正解者の中から、先着10名様に景品を差し上げます。

★2枚の写真にある違う部分を見つけてください。全部で10カ所あります。

★正解がわかった方は、本用紙の違っている部分に○をつけ、1階総合受付Iカウンターにお持ちください。景品と交換させていただきます。

★景品交換の際にお名前をご記入いただきます。

★おひとりさま1回限りです。



インプラント治療説明会のご案内

(平成31年4月~5月)

インプラント(人工歯根)についての説明会を実施しております。

○集合場所 1階ロビー(テレビ前) 会場は別の場所になります。

○参加費 無料

開催日	曜日	開始時間
4月6日	土	午前10時
4月17日	水	午後2時
4月30日	火	午後2時
5月10日	金	午前10時
5月20日	月	午前10時
5月29日	水	午後2時

※6月以降の予定については、本院ホームページにてご確認ください。

病院からのお知らせ(4月・5月の診療について)

赤字が休診日 となりますので、ご来院の際はご注意ください。

2019年4月							2019年5月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6				1	2	3	4
7	8	9	10	11	12	13	5	6	7	8	9	10	11
14	15	16	17	18	19	20	12	13	14	15	16	17	18
21	22	23	24	25	26	27	19	20	21	22	23	24	25
28	29	30					26	27	28	29	30	31	

※4/29(月)・4/30(火)・5/6(月)は平常診療となります。

発行責任者: 病院長 松島 潔
 編集責任者: 岡部 達
 発行元: 日本大学松戸歯学部附属病院
 〒271-8587 千葉県松戸市栄町西2-870-1
 TEL: 047-360-9521
 ホームページアドレス
<http://www.mascat.nihon-u.ac.jp/hospital>

編集委員

北川 剛至, 小峯 千明, 濱野 美緒, 目澤 優, 末光 正昌, 松本 大輔, 島田 敦子, 竹浪沙耶果, 安原 祐己, 湊 真理子

編集後記

新年度を迎え、より患者さんにとって親しみやすい内容の記事や、お気軽に参加していただけるような新しい企画も考え編集委員一同、取り組んでいきたいと思っております。また、本誌の記事に関するご意見・ご要望・アイデアなど、何でもかまいませんので、お気軽に総合受付Iの受付職員までお申し付けください。



初診受付時間

【平日】 午前9:00~午前11:00
【土曜日】 午前9:00~午前10:00

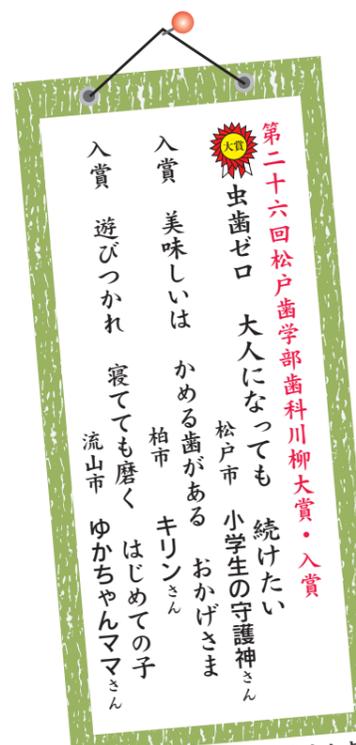
※土曜日に小児歯科、矯正歯科、顎関節・咬合科、口・顔・頭の痛み外来、医科以外を受診される場合、紹介状(診療情報提供書)を持参の方のみ受付となりますので、ご来院の際はご注意ください。

再診受付時間

【平日】 午前9:00~午後3:30
【土曜日】 午前9:00~正午12:00

入院患者さんへの面会時間

【平日・土曜】 午後3:00~午後8:00
【日曜・祭日】 午後1:00~午後8:00



応募作品十七点



タイトル

はくとくん 4歳 さほちゃん 2歳

TOPICS

- トピックス
- 表紙 患者さんからの写真
 - 〃 第26回川柳
 - 〃 子どもが描く・歯にちなんだ絵を募集
 - P2 診療室案内 訪問診療
 - 〃 放射線室より
 - P3 はなしか歯医者さんの独りごと
 - 〃 口腔がんについて
 - P4 間違い探し
 - 〃 インプラント治療説明会のご案内
 - 〃 病院からのお知らせ、編集後記

子どもが描く・歯にちなんだ絵を募集

今年も「歯と口の健康週間」(6月4日~10日)に恒例のイベントとなりました「子どもの絵作品展」を開催致します。ご応募いただきました皆様には粗品をご用意しておりますので、奮ってご応募ください。詳しくは院内掲示板や各受付に備え付けられました募集要項をご覧ください。

○募集期間 4月15日~5月25日
○展示期間 6月3日~6月28日

なお、大賞、入賞に選ばれた作品は、次号の病院だより「歯っとPepper」の表紙に掲載させていただきます。



診療室案内

訪問診療

高齢化の急速な進行と出生数の減少によって、人口における高齢者の占める割合が多くなっています。加齢とともに一人のもつ疾患数は増加し、多くの方は長い療養期間を過ごすこととなります。2025年の医療費は現在の約1.5倍の58兆円に達し国家財政への影響が懸念されています。在宅医療費は入院の約1/3程度となることや、住み慣れた場所でその人らしく療養することの良さから、在宅療養が推奨されています。また、お子さんにおいては生きていくうえで医療機器や医療ケアが必要な方々が急激に増加していますが、多くの方が在宅療養されています。実際には24時間の介護や急変時の対応など沢山の不安を抱えているのが現実です。本院ではこの不安に対応するために訪問によって健康づくりを支える重要性を認識し昨年10月より医療連携科を設置いたしました。医療連携科では特殊歯科を主体に麻酔科、総合診療科、小児歯科などが参加したチーム体制で取り組んでおります。

Q 訪問では何をしますの？

虫歯、歯周病、入れ歯の作成・修理などの歯科治療、お口の清掃管理、摂食嚥下リハビリテーションを行っています。摂食嚥下リハビリテーションでは超音波画像検査や精密検査の一つである嚥下内視鏡検査も行っています。



Q 訪問の対象は？

何らかの理由で外来通院ができない乳幼児から高齢者まで誰でも対象です。ご自宅、施設、歯科のない病院など様々な場所に対応致します。

Q 訪問は保険でできる？

本院から16km圏内は医療保険です。それ以外は自費となります。

「身体の健康は健口から」です。通えなくなったからとあきらめず、お口の健康を長く維持することは大切です。移動が困難であることが条件ですが、今まで通院していた方、口の中が気になる方、むせる、食事が減ってきた方、発達の段階で食べることに困難さがある方、誤嚥性肺炎を繰り返す方など、ご家族、施設職員の方、医療関係者の方などでお困りの方はスタッフまでご相談ください。

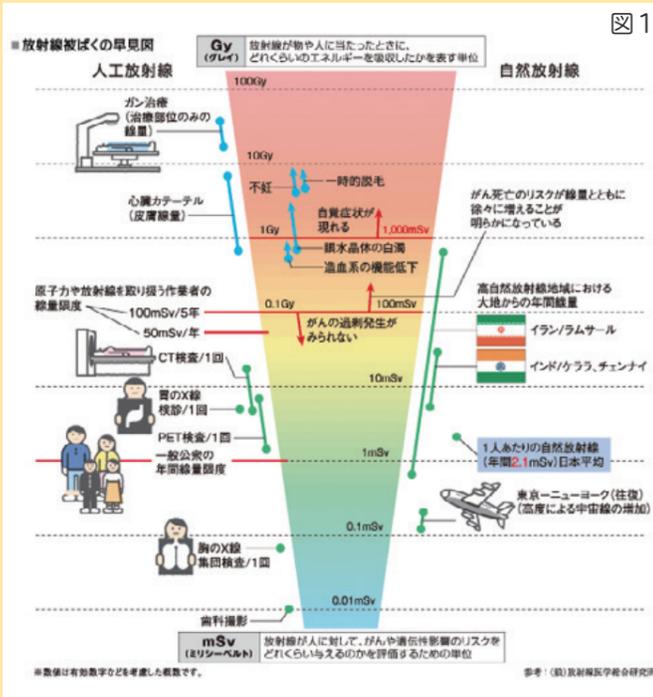
放射線室(診療放射線技師)より

現代の医療では放射線を使った検査が病気の診断の一助となっています。当院の放射線科では、歯だけではなく胸部や腹部、四肢等の一般撮影、CT撮影、他に磁気を利用してMR I撮影を行っています。これらの検査や撮影をしているのが、我々診療放射線技師です。

診療放射線技師と、医師、歯科医師の指示のもとX線画像など診断の上で必要な写真を撮るのが主な仕事です。医師、歯科医師との連携をとっていき、診断価値の高いより良い画像の提供を心がけています。

「放射線」=「被曝」という怖いイメージをもっておられ、検査に難色を示される方もいるかと思いますが、検査での放射線量(被曝線量)は図1に示されるとおり、歯科撮影では非常に線量は低く、安心して検査を受けていただけます。

我々も常に的確かつ良好な画像を提供し、患者さんのお役に立てるよう取り組んでいきますのでよろしくお願いいたします。



はいしゃ はなしか歯医者さんのひとりごと

第16話 歯間ブラシを勝手に使うな!



落語立川流：立川抜志 松戸歯学部卒(5期生)

最近では、だいぶおなじみになりましたかね？歯と歯の間を掃除する道具、フロス(糸ようじ)とか歯間ブラシ…使ってらっしゃいます？

歯間ブラシってのは、すごく効果がありまして、歯茎がシャンと引き締まりますな…

ここがポイントでして、薬でもそうなんですけど、効果が優れてるものは、間違っていると害も大きい…だからお医者さんの出すお薬とかは処方箋が必要なんですな…

コレと同じこととして、歯間ブラシも間違っていると使っていると良くないことになる…

使っちゃいけない人が使っているとタメになりません。使っているいい人でも、使っているいい所と使っていない所がありまして、むやみに使っていると組織を壊しちゃいけないんですよ。せっかくなら、ちゃんと使わなくつ

ちゃね！そもそも歯間ブラシってのは乱暴者なんです。歯の間にねじ込もうってんですからネ。だって、歯の間に歯茎が詰まってるでしょ？そいつは先がとんがってるんですよ。そこにゴリゴリねじ込んだら歯茎の形が変わっちゃいますよね？

歯茎が健康な所や、前歯の部分などの形が変わっちゃいな所は、フロスでそおと掃除をしましょうね。歯周病などで歯茎が下がっちゃった人は、積極的に歯茎の形を変えてでも管理しやすい形にした方がいいんです、だから使うんですよ。

でも、歯の形や歯茎の下がり方によって、すき間の大きさやら形やら難しいんで、ぜひ歯科衛生士に指導してもらって正しく使ってくださいね。

イケナイ事して悪い事になって…ってのは副作用とは言いません。ただの愚か者…是非とも患者ではなく賢者になって、健康に過ごしましょうね！

口腔がんについて

「口腔がん」とは口の中にできるがんの総称で、舌、口底(舌の下)、歯肉、頬のように口の表面を覆っている粘膜に発生するものと表面からは見えない唾液を分泌している唾液腺に発生するものを言います。いずれの場合でも口の中に「できもの」や「治らない傷や荒れ」などとして自覚されることが多く、他の臓器のがんや血液のがんと言われる悪性リンパ腫や白血病などの症状が口腔内に出現することも少なくありません。

口腔がんの発生に大きく関与しているのは、喫煙や飲酒、不潔な口腔衛生状態、適合の悪い入れ歯や詰め物や被せ物、歯の鋭縁などです。これらにより口腔の粘膜の細胞が常に傷つき、細胞が「がん」化しやすくなり口腔がんの発生リスクが高まります。

がんは(1)進行が速く、できもの(潰瘍、腫瘍)が速く大きくなる、(2)できもの周りが硬い、(3)周囲と癒着していて、境界がはっきりしない、(4)他の部位に転移するなどの共通の性質を持っています。

粘膜に発生するがんの表面の特徴は白斑型(白く隆起)、肉芽型(ぶつぶつしたもの)、腫瘤型(こぶのような盛り上がり)、びらん型(粘膜が剥がれた様子)、潰瘍型(深くえぐれている)などがあり

ます。いずれも見た目があまりきれいでなく、その周囲にしこりがあったり、ときに出血や痛みを伴います。

病期が進むにつれて咀嚼(そしゃく)や嚥下(えんげ)、さらに発音が障害されるほか、口が開けづらくなる(開口障害)こともあります。また、リンパに沿って頸部のリンパ節に転移し、リンパ節が腫れたり、さらに進行すると、肺、骨、肝臓など他の臓器に転移し、全身的な症状をおこすようになります。

早期発見と早期治療がとても重要となりますが、早期のがんは症状がない場合が多く、医療機関への受診が遅れ、がんそのものの診断が遅れることが多いのが現状です。口の中に3週間以上治らない口内炎やできものがある場合はぜひ担当医へご相談ください。

